

**映像** **長いお別れ**  
父の認知症を見守る家族の7年。

『湯を沸かすほどの熱い愛』の中野量太監督による最新作。父(山崎努)の認知症に寄り添う妻(松原智恵子)、そして2人の娘(蒼井優・竹内結子)が過ごした家族の7年間を描く。原作は直木賞作家・中島京子の実体験をもとにした同名小説。劇中音楽を手がけたのは、広島出身の渡邊崇さん。『舟を編む』で日本アカデミー賞優秀音楽賞に輝くなど、いま注目の作曲家。

時／5月31日(金)全国公開  
会／八丁座ほか(→詳細P9)  
料／一般1,800円、大学生1,500円  
高校生以下1,000円  
60歳以上1,100円  
問／八丁座  
TEL.082-546-1158(WEB有)

読者プレゼント(P.15に詳細)



©2019『長いお別れ』製作委員会  
©中島京子/文藝春秋



©2019『きみと、波にのれたら』製作委員会

**映像** **きみと、波にのれたら**  
気鋭俳優が声優に挑戦！青春ラブストーリー。

海外の映画賞でも存在感を放つアニメーター・湯浅政明監督の最新作は、若者のフレッシュなラブストーリー。声の出演として、今をときめく人気俳優が登場。ダンス&ボーカルグループ「GENERATIONS from EXILE TRIBE」の片寄涼太と、元AKB48の川栄李奈が恋人役を演じる。脚本は『猫の恩返し』など多くのアニメ脚本を手掛けている広島出身の吉田玲子さん。

時／6月21日(金)全国公開  
会／TOHOシネマズ緑井ほか(→詳細P9)  
料／一般1,800円  
(6/1より1,900円に変更予定)  
問／TOHOシネマズ緑井  
TEL.050-6868-5030 (WEB有)

**美術展示** **頼山陽と絵画**  
初公開の資料もあり。

江戸時代の文人・頼山陽の人柄や交流を、「絵画」をキーワードに紐解く企画。現在の中区袋町で育った頼山陽は、結婚直後に脱藩。連れ戻され幽閉された頃に著した歴史小説「日本外史」は江戸後期のベストセラーとなった。展覧会では頼山陽の絵や、当時交流のあった作家の作品を紹介。写真は頼山陽との悲恋で知られる画家・平田玉蘊との合作。今回が初めての一般公開となる。

時／5月30日(木)～7月21日(日)9:30～17:00  
※月曜、7/16(火)休館。ただし7/15(月・祝)は開館。  
会／頼山陽史跡資料館  
料／一般200円、大学生150円  
問／頼山陽史跡資料館 TEL.082-298-5051  
(関連イベント:6/8、29、7/6 13:30～展示解説会有)



藤花小齋画



『だるまちゃんとかみなりちゃん』  
1968年 福音館書店  
Illustrations©Kako Research  
Institute Ltd. 1968

**美術展示** **かこさとしの世界展**  
人気絵本の原画が広島に！

絵本「だるまちゃん」シリーズが刊行されたのは1967年、「からすのパンやさん」は1973年。半世紀経った今も愛され続ける絵本を生み出した、かこさとし(1926～2018年)の歩みを一望する特別展が広島に。子どものために創作した著作は約600冊。展覧会では人気絵本の原画をはじめ、その下絵や資料などを紹介。作品に込めた作者の思いに迫る。

読者プレゼント(P.15に詳細)

時／6月15日(土)～8月4日(日)  
9:00～17:00  
※初日は10:00から、金曜は19:00まで  
会期中無休  
会／ひろしま美術館  
料／一般1,200円、高・大学生900円  
小・中学生500円  
問／ひろしま美術館  
TEL.082-223-2530 (WEB有)

**各種イベント** **ハナショウブ&アジサイまつり**  
多種多様な品種が開花！

広島市植物公園では、6月になると日本庭園のハナショウブが見ごろに。同じころアジサイも開花する。週末は2つの花を楽しむイベントを開催。育て方の実演会に、植物ガイド、お茶会(200円)など。多彩なアジサイの中でもスタッフがイチオシするのは「明月院ブルー」の呼び名で知られるヒメアジサイ(写真)。アジサイの小道のほか、約120株の鉢植えも楽しんで。

時／6月の土・日曜日(23日まで)  
会／広島市植物公園  
料／一般510円  
高校生・シニア170円  
(要身分証明書)  
問／広島市植物公園  
TEL.082-922-3600 (WEB有)

